

## 式 辞

桜の開花時期が話題になる、春の訪れを感じる頃となりました。本日、この良き日に、ご来賓の皆様、保護者の皆様のご臨席並びに1・2年生全員が出席する中、「第78回卒業証書授与式」を挙行できますことに、心より感謝申し上げます。

ただ今、卒業証書を授与しました195名の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

保護者の皆様におかれましては、お子様がこの晴れの日を迎えられましたことに、心よりお祝い申し上げますとともに、今日までのご支援・ご協力に教職員一同、厚く御礼を申し上げます。

卒業生の皆さんの高校生活は1年生の5月にコロナ禍が明け、本来の高校生活が軌道に乗ってきた矢先の新年1月に被災。それ以降の約2年間は通常の学習・部活動に加えて、震災からの復旧・復興、災害対応力の強化策を考え行動する日々となりました。全く予想もしない展開でしたが、その中で皆さんは様々な出会いを大切に、たくさんの経験を力にしてきました。予測困難で正解のない世界を生きて行く皆さんにとって、卒業後も見据えた七尾高校での学びは必ず支えとなってくれるはずです。

ただ、これからの人生も時にはうまく行かず、悩み疲れることもあるでしょう。そのような時に皆さんを癒し回復させてくれるのが「懐かしい」という思いです。私は七尾高校の各地区同窓会に出させていただきましたが、久しぶりに再会し、母校のこと、故郷のこと、友だちや先生との思い出を語り合う同窓生の皆さんはどんどん笑顔になりエネルギーが満ちてきているようでした。懐メロという言葉がありますが、お気に入りの歌を聴くと自分の心の拠り所（心の支え）を思い出し、気持ちが温かくなるあの感覚と似ています。「懐かしい」は元気が出る薬なのです。だから、困った時にはぜひここで出会った仲間や故郷を頼ってください。母校を訪ね、同窓会に出席してください。懐かしい話（昔話）で盛り上がりましょう。

あともう一つ、皆さんに贈りたい言葉があります。それは「迷ったら、やりがいのありそうな方、ハイリスクな方を選ぶ」です。訪れたチャンスを逃さず、背伸びをしてでも挑戦する姿勢の大切さを示しています。第66次南極観測隊（現在南極に行っている第67次の一つ前）で女性初の隊長を務められた原田尚美氏（東京大学大気海洋研究所教授）の言葉です。これまでの常識というアンコンシャス・バイアス（無意識の思い込み）から脱し、「伴走するリーダー（一緒に走るリーダー）」という新しい考え方で見事に役割を果たされました。南極では、隊員一人ひとりの状況を見ながら、必要なときに手を差し伸べ、無理をさせない判断を重ねたことが、過酷な環境でもチームの皆が前を向き続ける力になったそうです。ぜひ、「迷ったら、やりがいのありそうな方、ハイリスクな方を選ぶ」姿勢で、これからの人生を歩み、原田尚美氏のように新たな世界を築いてください。

最後になりますが、今日の卒業式を経て、皆さんは「七尾高校第78期生」となります。同窓会などで元気にお会いできることを楽しみにしながら、皆さんの前途に幸多かれと心から願い、式辞といたします。

令和8年3月3日  
石川県立七尾高等学校  
校長 樋上 哲也